

古田織部の美意識が詰まった茶道具

南蛮耳付水指

ベトナム産（17世紀） 松井文庫所蔵

『利休百会記』という千利休晩年の茶会記に、松井康之（1550-1612）を客として迎えた記録があります。利休が愛した「木守の茶碗」（赤染茶碗）を用い、懷石に「串鮑」「このわた」（ナマコの内臓の塩辛）、菓子は「焼き栗」「麩の焼」を供しました。「このわた」は日本三大珍味の一つではあるものの、昔から好き嫌いがわかれる食材。これを選んだ利休は、康之の好みを知っていたに違いありません。

康之といえば、細川家の筆頭家老として数々の武功を重ね、その恩賞として秀吉から唐物茶壺を拝領するなど多くのエピソードを残しています。加えて忠興（三斎）とともに利休の直弟子だったのですが、ゆかりの茶道具が少ないことから「茶人」としての康之が注目されることはあまりありませんでした。

ただ今、八代市立博物館未来の森ミュージアムでは、秋季特別展覧会「ものふと茶の湯―利休から織部・忠興・康之へ―」を開催しています。わび茶の大成者である利休とその後継者・古田織部と細川忠興、



▲南蛮耳付水指 ベトナム産 17世紀 松井文庫所蔵

三者と親密な関係にあった松井康之の茶人としての実像を、書状や茶道具から浮き彫りにします。なかでも織部が康之に

宛てた18通の書状（松井文庫所蔵・展示は八通のみ）は圧巻、その多くが茶事に關するもので、利休が提唱した歪の美学を一層深化させた織部スタイルに共感する康之の様子が伺えます。

写真のやきものは、茶席で水を溜めておく「水指」。箱書きから、織部が康之に送った「南蛮水指」で、「芋頭」という銘を持つことがわかります。ベトナム中部ホイアン近郊の窯で焼かれたもので、わび茶の美意識にかなう不完全な造形でありながら、全体に漂う気品から日本の茶道具の名品として知られ、本品を贈られた康之が一流の茶人であることの証にもなっています。

（市立博物館未来の森ミュージアム

学芸員 石原浩

■松井文庫展示案内 [企画展示]

「妙見祭礼絵巻」

「八代焼いろいろ」

会期 開催中～翌年1月末日まで
 会場 松浜軒内 松井文庫展示場
 午前9時～午後5時
 （入園は午後4時30分まで）
 休館日 毎週月曜日
 （祝日の場合はその翌日）
 観覧料 一般500円
 小中学生250円

問合せ 松浜軒／松井文庫
 ☎ 33-0171



世界最大の柑橘類「晚白柚」と一緒に「八代」を丸ごと詰め込んで全国へ届けます

申込期間 11月1日(金)～30日(土)

※11月22日(金)は実施しません。

申込窓口 新八代駅観光案内所 毎日 午前9時～午後5時
 本庁仮設庁舎西棟1階
 月・金曜日のみ 午前9時～午後4時

※FAXや郵送での申し込み可

発送日 A商品 12月10日(火)

B商品 12月11日(水)

販売価格 各5,000円(送料・税込み)

問合せ DMOやつしろ ☎ 31-8200



▲A商品



▲B商品

今月の表紙

写真は、昨年八代トヨオカ地建アリーナで行われた女子ハンドボールアジア選手権。今回行われる2019女子ハンドボール世界選手権大会では、アジア選手権以上にスピーディーでアグレッシブな世界最高峰のプレーをきっと見ることができます。ぜひ、会場に行ってみませんか。